

【提出意見】

井柳 美紀（静岡大学）

桑原委員から主権者教育における改善の方向性について、民主主義観の形成、そこにおける「価値葛藤」の重要性について指摘があり強く賛同いたします。あわせて、近年の民主主義をめぐる背景としてのネットの活用など、判断主体の判断環境が大きく変化する中で、現在SNSではアルゴリズムなどにより見たい情報や好む情報に囲まれやすくなったり、ネット上の発信やコミュニケーションでは対面では言えないような過激な発言が散見されたりするなど、様々な新しい現状があらうかと思えます。現在及び将来の主権者の判断環境を踏まえると、葛藤や対立の探求はこれまで以上に大切だと思えます。様々な教育手法があらうかと思えますが、対面による議論や外部で様々な意見をもつ人達との議論などにおいて「葛藤」や「対立」を実際に経験し、政治リテラシーを深めることは今まで以上に重要だと考えます。

また、最後に外部機関との連携における地方議会の活用の重要性に言及された委員がいらっしゃいましたが、こちらについても私も賛同したいと思います。実際に様々な地域の課題について異なる意見をもつ地方議会の中における様々な議論や意見に触れ知ることは、地域社会の実際の課題について一緒に葛藤や対立を理解する場にならうかと思えます。もちろん、目の前の現実だけではなく制度や仕組みの成立に至る歴史を踏まえ、相対的に現在をみる視点を養っていければとも思えます。もう一点、主権者教育イコール投票参加ではない点を強調する意見が多く出されそれは正しいと考えますが、しかし同時に、政治リテラシーを伴った市民の育成とそれに伴う投票参加の向上はやはり重要ではあるとも思えます。現状、若者の投票率はここ数回で若干ありましたが、少子高齢化の中でなお若い層のボリュームは少なく、若い世代の政治参画は若い人たちが持続可能な社会を創る上で、教育に課された重要な1つの課題だと思えます。あわせて、地方選挙の投票率がかなり低い現状があるので、地域や地域社会の課題への関心の向上も重要だと思えます。